

第四日、漸く先生の寸鐵評語が身にしみた、兎に角に苦勞したのである、最初から講師にのみ依頼して、上手になるだろうと思つたのは誤りて、乳を飲む小兒は乳を飲むとを意識して後に飲むのである、いくら母が與へても飲むとを知らない小兒は成長しない、到底自助である、先生は進路を指示し研究の方法を誤らない様にするのである、吾人は精緻穩健の考を以て溘々として努めねばならない。

美術は絶體價值のものである、烈士義人の行爲も道德の名に由て傳られてあるが、其實一種の美的である、道德も醇粹生命あるものは美的活動に依て始めて得らるのである、其道に就くや烏の埒に歸るが如きに到るは、藝術を透して獨り得らるゝものではなかるうが、余は講習中自己の愚なるを知得たのである、誠に天の時を得地の利を得、而して人の和、又有りし講習會で在た、而して又趣味ある避暑法で、又練想の教育であつた、氣の毒なのは塵表閣の主人で、酒が少しも賣れなかつとこぼした。

(終)

小樽より

拜早益々御清榮奉賀候、陳者去る八月中設立いたし候『白百合會』は、本月三日天長の佳節を下して、小樽英和學校に第一回展覽會を開催いたし候、其折は小樽新聞記者松田竹嶼氏に依頼し、先生の御高作三葉拜借いたし難有御禮申上候、先生の御作は右の外藤野羊蹄氏所有の九つ切位の『川邊の夕暮』の圖有之

候、以上の四葉有之候爲め錦上に花を添へ誠に御見事の御作と奉存じ候、先生の御作の拜見いたし心に期し候は眞面目と忠實の一事に候、あまり言多くはいたさず候らへ共、今後は不言の教に従ひ眞面目と忠實を旨と可致候。

白馬會會員田中寅三氏、高橋勝藏氏の水彩及び油繪、同じく白馬會々員にて美術學校生徒なる長谷川昇氏、小樽中學圖畫教師關精一氏の油繪の出品有之候、其他會員の作品水彩、油繪、チヨーク、木炭畫等有之合計五十點計りに候、洋畫展覽會としては今回が始めに候爲め頗る盛會に御座候。

第二回は明年四月の筈に御座候、其折は第一回に増し盛會を期し申し候。

鈴木 登

安中みずゑ會記事

三十六 公

本會設立に就いて其の種蒔をされたのは根岸君で適度の温熱と濕氣とを與へて其の萌芽を見る事を得させたのは丸山先生である吾々會員は兩氏の勞を決して忘れてはならない。満山紅を染むる霜月二十七日は本會第一回の開會で有つた待ち焦れた丸山先生に接して居る間は僅かに數時間で有つたが其の得た知識は實に多大で有つた事を皆喜んで居る。斯く多大の結果を得たのは勿論講師の手腕に因るのであるが又一つには會員の熱心と其の方法が良かつたからであらう。午前に作品批評と講話をされ

た午後は其の講話された事を野外に於て實地に筆を執つて示されたのである而かも其の書かれた場所は我が地方の景色に大概出て来て又其の應用の範圍の廣い材料が澤山有る所であつたから其の得たる所が多かつたのである。是迄の經驗に依るとどうしても専門家の肉筆を見たり模寫したりするより外に捷徑は無い様だ専門に研究する人でも先づ先輩の遣り方を一通り調べてそれから實地に當つてそれ以上の工夫をするのであらう吾々は娛樂の爲に繪を書くので研究などいふ資格がないのであるから吾々は何も書けない物を無理に書きたがるには及ばない先づ第一に大家の肉筆を見たり模寫したりして其の得た知識を以て描けるだけの物を描いて居れば充分樂みになるのである吾々は丸山河合兩先生が惜氣も無く神作を本會へ貸して下さるのを此の上も無く有り難い事に思ふ。吾々は初は講義録體の物に由つて模寫したものであるが其の説明通りに繪具を交ぜてもどうしても其の色が出ないそこで始めて肉筆と違つてゐるのではあるまいかと氣がついたのであるそれからどうかしく度々大家の肉筆を見たり模寫したりする機會を得たいと心がけて居つたので有るが今は本會の設立に依つて其の大願が成就した譯である數里を遠しとせずして本會に加入された者も數名あるが大方講義録などの價値の少い事を認めた方であらう

△ △ △
この程少年世界で集めた現代名家幼時の記憶のうち、その最も好きであつた事との間に對して「繪を畫くこと又は見ること」と答へられしは左の二十七氏である

伊藤銀月君、生田葵山君、萩野山之君、西村清山君、大倉平三君、大町桂月君、大下藤次郎君、和田萬吉君、和田英作君、鎌田榮吉君、梶田半古君、横井時敬君、添田壽一君、坪井正五郎君、内藤鳴雪君、那珂通世君、中村不折君、丸山晚霞君、松井直吉君、江見水蔭君、櫻井義肇君、佐々醒雪君、三宅雄二郎君、三宅克己君、水野繁太郎君、鹽井兩江君等

そして、「最も嫌いてあつた事」の方に、算術や手習讀書などは澤山あるが、繪が嫌いてあつたと答へた方は一人もない。また言ふまでもなく主筆の巖谷小波氏は幼年時代から繪は大好物であつた

墨繪の彩色畫の濃淡の調子を見るための「調子鏡」は、通常繪具屋にあるのは高價でありますから、私が修業の餘暇に造つたものを實費で頒ちます。御入用の方は、東京小石川區服部坂下日本水彩畫會内、C、M、生宛に御申越下さい

● 調子鏡、一個金十錢、小包送料金十錢
(郵券代用差支なし)